

特集 2

サーバーなしで情報・スケジュール共有

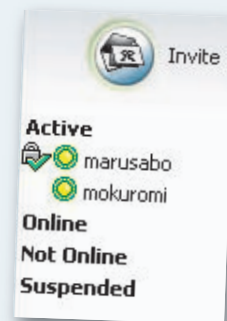
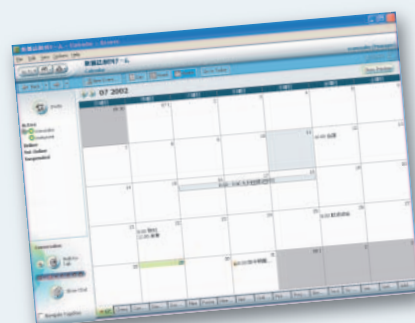
## P2Pグループウェアを使いこなせ

Groove 完全攻略裏技含み

これまではナブスターやグヌーテラといったファイル共有サービスに話題が集まりがちだったP2P(Peer-to-Peer)アプリケーションの中で、俄然盛り上がっているのが「P2Pコラボレーション (P2Pグループウェア)だ。サーバーを介してコミュニケーションを行う従来のグループウェアと異なり、P2Pグループウェアではサーバーなしでスケジュールやファイルなどの情報を共有することができる。P2Pグループウェアの筆頭「Groove」を使って、P2Pによるコラボレーションの世界へと足を踏み出してみよう!

text: 伊藤直樹 + 緑川 潤 + 伊東裕揮 + 吉田 究 + 編集部 photo: Watari Tokuhiro

Groove最新版「Groove Workspace Preview Edition」付録CD-ROMに収録!  
[収録先]CD-ROM 「Groove」フォルダー



これを知らずにコラボレーションは語れない

## 「P2Pグループウェア」

グループでの情報共有手段と言えば、メーリングリストをはじめチャットやインスタントメッセージングなど数多い。その中でも大きな話題となっているP2Pコラボレーションツールとは、いったいどのようなものだろうか。

### P2Pコラボレーションの世界

サーバーを介さない通信形態であるP2Pが、いま、コラボレーションの分野で注目を集めている。きっかけは何と言ってもブロードバンド環境の浸透だ。ダイヤルアップの時代、グループの重要な情報はサーバーで管理するのがもっとも安全で効率的だった。そのため、これまでの情報共有はクライアント/サーバー(C/S)形式で行うのが一般的だった。ところがブロードバンドの普及によって、クライアント同士の通信も高速かつ安定して行えるようになったため、複数のクライアント同士で情報共有を行うP2Pコラボレーションのニーズも急速に高まってきたのである。

グループコラボレーションツールの代表格は、言うまでもなくグループウェアだ。スケジュール(カレンダー)やアドレス帳、ToDoリスト、ファイル共有、チャット、インスタントメッセージングといった機能がパッケージ化されたグループウェアは、仕事

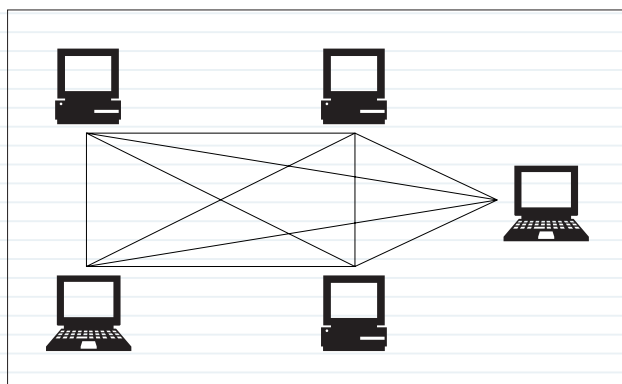
でもプライベートでもグループコミュニケーションの場面での利用価値は高い。

まずは自分で使ってみよう!

P2Pグループウェアの用途に関しては、ビジネスのグループプロジェクトにおける情報共有はもちろん、最近ではさまざまな用途で利用されはじめている。たとえば、インターネットに接続されたコンピュータは複数台あるものの、サーバーを設置したりLANを組んだりする熱意もスキルもないという人は意外と多いのではないか。こうした場合にP2Pグループウェアを導入すれば、ソフトウェア上でクローズドなネットワークを作ることも可能になる。もちろんサーバーも不要だ。つまりP2PネットワークをバーチャルLAN的に使えるわけだ。

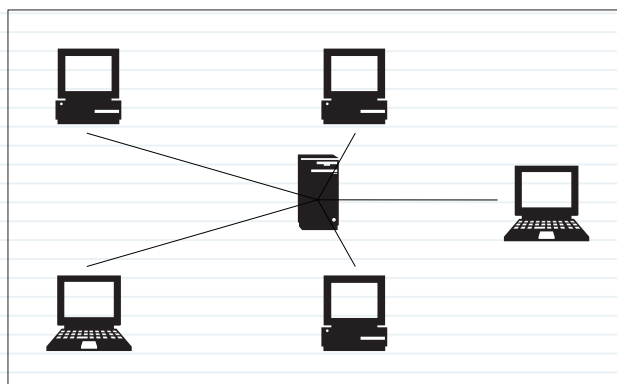
今月号の付録CD-ROMにはP2Pグループウェアの代表格であるGrooveを収録したので、この機会にぜひP2Pグループウェアの世界を体験してほしい。

P2Pコラボレーション



P2Pコラボレーションツールでは、クライアント同士が互いに情報を通信し合うことで情報を共有する。サーバーが必要ないため導入も容易だ。

クライアント/サーバー型コラボレーション



一般的なグループウェアはサーバーの設置と管理・運用が必要になるが、企業の情報システム担当部署などが管理することでシステムの信頼性は一般的に高い。

えっ、アナタまだ使っていないの？

## こんなヒトは断然P2Pでやってみよう!

illust. : Shu-Thang Grafix

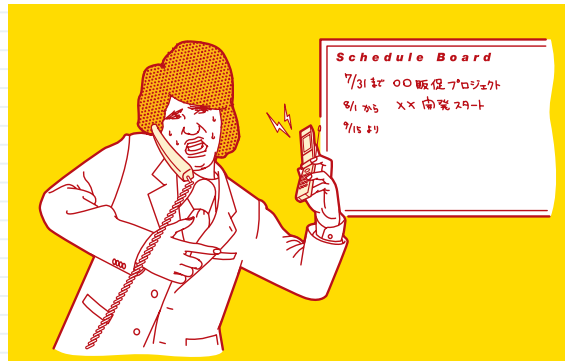
P2Pグループウェアを使っている人はまだまだ少数派。興味はあるけど足を踏む人が多いのかもしれない。ならばここでは、「こんなグループこそは断然P2Pグループウェアを!」という使い方の例をいくつか紹介してみよう。

### 1. 社外の人たちとのやり取りに!



いま時代はアウトソース。優秀な人は社の内外問わずに使いたい。こうして社外の人たちと仕事をする機会が増えたとはいっても、ファイアーウォールがあるために社内ネットワーク外の人とグループウェアを使えないという人は多い。Grooveの通信はHTTPで行われるので、ファイアーウォールを越えてコラボレーションすることができるぞ!

### 2. プロジェクトがいくつも走っている人に!



短いスパンで次々とプロジェクトを走らせているビジネスマン。その都度グループウェアを導入しているカネもヒマもない。ましてや頻繁に会社の情報システム部にグループウェア導入を頼むの気が引ける……。クライアントでインストールするだけでなく導入できるP2Pグループウェアは、そんな忙しいアナタの味方だ!

### 3. サークルや同好会の仲間たちで!



趣味や遊びの仲間たちとのやり取りに本格的なグループウェアを使っている人はあまりいないと思うが、P2Pグループウェアは管理も簡単だし値段も安い。これまで非常に面倒だったスケジュール管理やモノ創りなどの意見調整といった幹事の仕事も、ぐっと効率的になること請け合いです! もうメンバーリストだけでは物足りなくなるはず……。

### 4. 複数台のコンピュータをラクしてつなぎたい!



オフィスと自宅で2台のPCを使っている人は多いだろう。本当はサーバーを構築して本格的なドキュメント管理がしたいけれど、そんな知識もないし何より面倒だ……。そんなときこそP2Pグループウェアを使ってみよう。手間のかかるサーバー管理などせずにファイル共有などのサービスが使えるようになる。家庭や事務所にある複数台のPCにも有効だ。

ここで紹介したのはほんの一例に過ぎないが、この4つの事例は多かれ少なかれあらゆる人にあてはまるはずだ。これらの事例からも、グループはもちろん、1人で複数のPCを使うときでもP2Pグループウェアが役に立つことはわかってもらえたのではないだろうか。もうあとは実際に使ってみるだけ! 138ページからの「Grooveの使い方」を見ながら、友人や同僚、自分のサブマシンとP2Pコラボレーションしてみませんか。

続々登場！グループウェアにはないリアルタイムな関係

## P2P コラボレーションツールの8大特典 text: 伊藤直樹

グループで仕事をするうえで、情報を共有したいというニーズからグループウェアが生まれた。そしてブロードバンド時代に入りP2P コラボレーションツールが登場した。さて、両者の違いは？

### 1 すぐに開始できる

サーバーを購入して管理するという、煩雑で大きなコストを伴わないので、ソフトウェアを各PCにインストールさえすればすぐに始められる。ランニングコストもクライアント/サーバー形式のグループウェアと比べて低い。

### 2 誰とでも簡単に関係を作れる

グループへの加入は、新たなメンバーを「招待する」ということである。招待を受けたメンバーは「参加する」という意思を示すだけで手続きが完了する。そこに組織の壁はない。

### 3 より簡単で便利に

P2Pでは、共有情報はすべて各人のパソコンにある。すべてのデータがサーバーにあり常にサーバーとの通信が必要となるクライアント/サーバー型よりも、機能性や操作性が格段に向上している。

### 4 手間がかからない

ダウンしたパソコンは、動いているPCとの同期により復旧される。そのときには、高度なサーバー管理技術もデータのセーブも必要としない。これに応用すれば、自宅とオフィスで同じ環境を維持することができる。

### 5 P2Pプラットフォーム

現在、ビジネスシーンで注目を集めているGrooveは、P2Pプラットフォームであり、Microsoft Wordや自ら作成したアプリケーションをGroove上で動作させてP2Pアプリケーションとすることができる。

### 6 リアルタイムに更新

遠く離れたメンバーが、P2Pグループウェアの電話(ボイス)機能を使って会話しながら、画面上に表示される同じファイルに相互に書き込んで自分の意見とデータをリアルタイムに伝えることができる。

### 7 汎用なデータ形式

コンピュータの世界は、データのアプリケーションへの依存性を排除して、どこでも利用できる汎用的なデータにする「疎結合」の方向に向かっている。P2PもデータのXML化により「疎結合」化している。

### 8 シームレスな関係

インターネットの世界では、自分のパソコンがサーバーなのかクライアントなのかという区別が無意味になり、シームレスになっていく。コンピュータのサーバント(サーバー+クライアント)化が進む。

#### 2つの形態に分かれるコラボレーションツール

種類	クライアント/サーバー(C/S)型	P2P型
サーバー	必要	必要ない
導入コスト	大	小
利用形態	主に企業組織	自由
企業組織の横断	困難	自由
期間限定の利用	困難	自由
システムの停止	サーバー環境に連動して発生	発生しない
システム負荷	サーバーに集中	分散している
システムの復旧	高度な技術が必要	自動復旧
共有データの所在	サーバー	すべてのパソコン(サーバント)

C/S型は多くの場合、インターフェイスとして専用ソフトとウェブブラウザを両方サポートしているが、その中にはブラウザのみをサポートするウェブ型もある。

迷わず選択するポイント

## 最新P2Pコラボレーションツールを徹底比較

text: 緑川 潤

日本製のツールも登場してきて、一気に賑やかになってきた。

豊富な機能を満載したツールを自分の環境に合わせて選んでみよう!


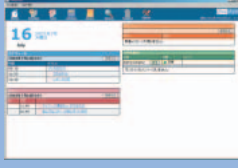
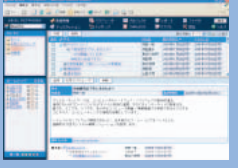
### [ Point 1 ] 使いやすい機能

### [ Point 2 ] マシンスペック

### [ Point 3 ] コスト

P2P コラボレーションツールは、サービス料金を含んで高くても1万円程度なので、気軽に使うことができる。また、P2PならばC/S型のグループウェアほどにサーバーやネットワークのレスポンスを気にしなくてもいい。そうした製品の機能などを表にまとめた。圧倒的に多機能なのはGrooveだ。マイクロソフトOfficeのファイルまで操作できるので、その詳細は次ページからを

参照してほしい。ただし日本語のファイルも扱えるが、やはり英語版しかないのが残念だ。このGrooveの対抗馬と目されているのが日本製のArielAirOne。必要とするディスク容量が少ない特徴をもつ。もっとも機能がシンプルなのは「ifreestyle」で、iモードからの操作も可能だが、JavaとFlashを利用するため、機能の割には高いスペックのマシンが要求される。

製品名(提供会社)	Groove Workspace (Groove Networks)			ifreestyle (デジタルドリーム)	ArielAirOne (アリエル・ネットワーク)
画面					
	Preview Edition	Standard	Professional		
ウェブサイト	www.groove.net			www.digitaldream.co.jp	www.ariel-networks.com
リリース時期	2000年7月			2002年7月	2002年9月(予定)
最新バージョン	2.0			1.2	1.0
価格	無料	49ドル	99ドル	3,000円	1万円前後(予定) (ボリュームディスカウントあり)
販売方法	ダウンロード販売			ダウンロード販売	ダウンロード販売
おもな機能	プロジェクト管理(共有スペース) ディスカッション ファイルの共有 インスタントメッセージング リアルタイムチャット 音声通話 Outlook、Projectとの連携 ファイル内容の表示機能 (Word、PowerPointなど) スキン アドオンツールの組み込み レポートの保存、表示、印刷機能	Preview Editionの機能に加えて、共有スペースの作成数が無制限 プロジェクト毎の管理 タスク数が無制限 ミーティング数が無制限 添付ドキュメント数が無制限 フォーム、ビュー、データベースの作成	Standard Editionの機能に加えて、メンバーのプロジェクト・タスク・ミーティングの管理 マイクロソフトProject ファイルの入出力機能 フォームの入出力機能 フォームへのスクリプトなどの埋め込み機能 フォーム・ビュー、データベースの作成数が無制限	メモ帳 アドレス帳 メッセージ To DO スケジュール管理 行き先案内 iモード対応	プロジェクト管理 ディスカッション ファイル管理 メッセージ To DO スケジュール管理
日本語の使用	一部制限あり			可	可
他のメッセージャーとの互換	ウィンドウズメッセージャー (ウィンドウズXP)			なし	次期バージョン以降で予定
初期インストール時のディスク容量	73Mバイト(推奨: 100Mバイト以上)			20Mバイト(推奨: 37.2Mバイト以上)	5Mバイト
対応OS	ウィンドウズ98/NT4.0SP5/2000/Me/XP (ウィンドウズ9X系では、日本語使用に不具合がある)			ウィンドウズ98/NT/2000/Me/XP (MacOSX対応予定)	ウィンドウズ2000/Me/XP、Linux
その他必要ソフト環境	インターネットエクスプローラ5.5以上			インターネットエクスプローラ5.5以上 マクロメディアFlash プレイヤー6 J2RE1.4	インターネットエクスプローラ5.0以上 ネットスケープ6.2
推奨ハードスペック	ペンティアム500MHz以上 メモリー256Mバイト			ペンティアム500MHz以上 メモリー256Mバイト (Flashプレイヤー6が快適に使用できる環境を推奨)	ペンティアム700MHz以上 メモリー128Mバイト
ネットワーク名称(フレームワーク)	Groove			p to p++	SOMAnet (Self Organization MAP)
ファイアウォール越しの通信	リレーサービスが中継			JXTAが中継	SOMAプロトコルが中継
カスタマイズ	Groove Development Kit(GDK)の提供			ifreestyleエンタープライズゲートウェイ(EP)にて対応	未定

ウェブサイトの情報や取材など独自調査  
独自技術の名称。P2Pとクライアント/サーバーとのハイブリッド型。

P2Pグループウェアは仕事に使えるのか？

## 実録！ Grooveが支えたOPTICIAN開発の舞台裏

ここでは、2001年に筆者が実際に「Groove」を使って行った、ある開発プロジェクトを紹介したい。SIPS(Strategic Internet Professional Services)と呼ばれるサービスを手掛けるネットイヤーグループが、ログ分析コンサルティングのノウハウを結集したクリックストリーム分析システムである「OPTICIAN<sup>オプティシアン</sup>」開発の舞台裏である。

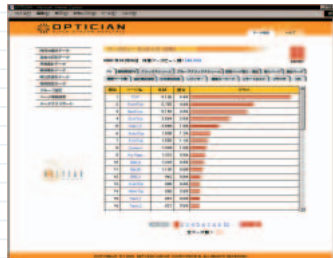
report: 伊東裕揮(ネットイヤーグループ株式会社 / テクニカルストラテジスト)

6月1日

プロジェクトがスタート。実働メンバーは7人。機能設計を担当するマーケティングコンサルタントのY氏、システム設計とプロジェクトマネージャーを担当するシステムコンサルタントの私、協力会社のエンジニアが5人。このようなプロジェクトを円滑に進めるには情報共有ツールが必須で、そんなときに効果を発揮するのがグループウェアだ。日常業務では各社それぞれにグループウェアを使っているが、情報セキュリティを考えると、社内外にまたがる今回のプロジェクトに社内グループウェアを使うことはできない。

「新たにサーバーを立てなければ……」と嘆いていたら、我が社のP2Pチームから「Grooveは結構イケるんじゃないか？」とアドバイスを受け、早速インストールして使ってみることにした。

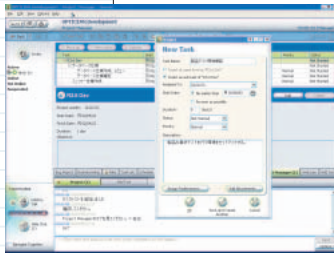
これがOPTICIANだ



ウェブサイト内でのユーザーの行動が分析できる。クリックストリームを分析することで、顧客体験を測るための「メガネ」を提供。価格は400万円から。問い合わせ: ネットイヤーグループ株式会社  
TEL: 03-5728-0600 [www.netyear.net](http://www.netyear.net)

6月4日

新技術に敏感なエンジニア中心のプロジェクトだからだろうか、私の呼びかけに対して全員がすぐにGrooveをインストールしたようだ。メンバー全員に私のほうからすでにInvite(招待)を送ってあったので、インストールした各メンバーは



すぐにShared Spaceに加わってきた。この手軽さがP2Pアプリケーションの強みだ。インストールした彼らも、すでに書き込まれていたスケジュールとタスクを見て驚いただろう。これは昨日のうちに私が書き込んでおいたものだ。Add ToolでProject Managerを追加し、開発タスクを入力。スケジュールとタスクの共有がこんなに簡単だとは……。これはプロマネの仕事を随分楽にしてくれるツールだ。

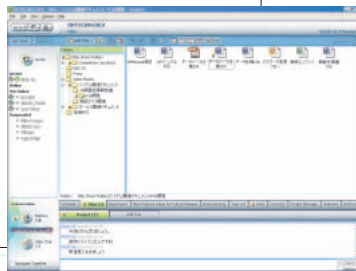
プロジェクトの方向性を示せ!

10月7日

競争力のある製品にするためには、日々変化するマーケットに対応した機能を提供しなければならない。といって製品のリリースを遅らせるわけにもいかない。製品開発では常に直面するジレンマだが、今回もやはりぶつかった。OPTICIANの機能仕様を決めたY氏が、市場調査中の米国から「USではこんな製品が出ている。市場を考えると、やはり機能追加が必要だ」とメールを送ってきた。しかし、開発完了まで残り時間もほとんどない。急遽、関係者全員でChat機能を使って仕様変更の会議。メンバー全員の意見を踏まえ、仕様の変更を決定。話の進行を確認するにはチャットのログが大いに役立った。

7月7日

仕様書などのドキュメントは、開発が進むと毎日のようにリバイズがかかる。通常、こうした書類の最新版をメンバー内で確実に共有するのは大変だが、Grooveのおかげでその手間がかなり省ける。昨日アップロードしておいた設計書にメンバーから早速リバイズが入っていたが、Grooveなら更新されたドキュメントも一目瞭然だ。ここでもP2Pアプリの便利さを実感した。



データの更新も一目でわかる!

11月15日

無事に開発を完了。Grooveによってプロジェクトの情報共有は随分と助かった。とはいえ、ときには更新されたドキュメントが届くのに時間がかかることもあった。安定性の向上と、社内グループウェアとの連携機能の拡張が見込めれば、より広範囲なプロジェクトでもぜひGrooveを活用したいものである。

P2P コラボレーションツールの本命

# Groove Preview Edition を使いこなす

text: 吉田 究

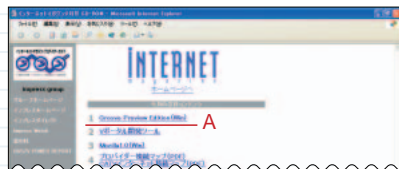
「Groove」の設定から活用方法までを一挙に紹介する。まだ英語版しかないが、手順に沿えば安心して使える。

P2P コミュニケーションツールを使ったことがない人も、使わずにはいられなくなること必至!

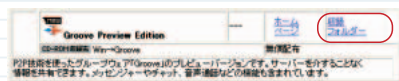
## 1 とりあえずインストールしてみる

はじめに、付属CD-ROMからインストールする方法を紹介する。CD-ROMが使用できない場合は、ホームページからインストールプログラムをダウンロードすることができる。日本語のページがないので、プログラムをダウンロードするときには英語の質問にいくつか答えなければならぬ。しかし、必携の質問項目については、ここで説明しているので英語がわからなくても大丈夫だ。

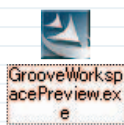
### 付属CD-ROMでインストール



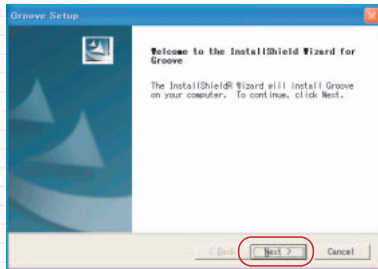
[ 1 ] 付属CD-ROMが自動的に起動する。Aのリンクをクリックする。



[ 2 ] 「収録ホルダー」をクリックする。



[ 3 ] 「Groove Workspace Preview.exe」をダブルクリックするとインストールが開始される。



[ 完了 ] 最後に「Finish」をクリックしてインストールが完了すると、いよいよGrooveが起動する。すぐさまP139へ進もう。

[ 4 ] ライセンスに同意したあと、「インストールするフォルダ」「ユーザーデータを保存するフォルダ」「ユーザーが利用するツールをインストールするフォルダ」「オプション」の順で聞いてくるので、そのままであれば「Next」をクリックして進む。

### CD-ROMが利用できない場合はダウンロード



[ 1 ] 「付属CD-ROMでインストール」の2]のリンクからGroove Networksのウェブサイトを開く。「Try Now」をクリックすると必要事項を選択、入力するページが開く。

www.groove.net

[ 2 ] 必要事項を選択、記入(英字)するとインストーラーのダウンロードが始まる。ダウンロードが完了したら、デスクトップの「Groove Preview Installer.exe」アイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動してプログラムのダウンロードが始まる。この後の手順は「付属CD-ROMでインストール」の4]。

Fill out the form below to begin your free download. Items marked with an asterisk (\*) are required fields.

How did you hear about Groove software? [ Select ]

- Advertising
- Article
- Direct Mail
- Colleague
- Seminar
- Trade Show
- The Web
- Other

Industry in which you work: [ Select ]

How many people work in your company? [ Select ]

With whom do you plan on using Groove software?

- Coworkers
- Customers
- Personal Contacts
- Colleagues from other companies
- Other

Email Address: [ Select ]

- Accounting
- Consumer Products
- Banking
- Education
- Energy
- Financial Services
- Government
- Healthcare
- Human Resources
- Insurance

Company: [ Select ]

Would you like to subscribe to the monthly Groove Bulletin and receive our latest news, product info, tips, offers and more?  Yes  No

Grooveソフトウェアをどこで知ったか。広告やダイレクトメールなどから選択する  
あなたが働く職種  
あなたの会社は何人の人が働いているか  
どのような形でGrooveを使うか  
電子メールアドレス  
会社名  
ここで「Yes」を選択すると、Grooveに関するニュースやTipsなどが登録したメールアドレスに配信される

### Hint Preview Editionの制限

GrooveのPreview Editionは無料だが、いくつかの制限事項がある。共有スペースの作成が3つまでになることや、ビジネスでの利用は使用期間が90日に設定されることなどだ。この制限がないStandardとProfessionalが用意されているが、それぞれ有料で49ドルと99ドルだ( P136表参照 )

## 2 シェアード(共有)スペースを作成する

インストールが完了したら、実際にメンバーと共同作業を行う準備をしなければP2Pの醍醐味は味わえない。まずは、Grooveに自分の情報を登録し、次にメンバーと共有するスペースを作成する。この共有するスペースにメンバーを招待して、そのメンバーが承諾するとGrooveで共同作業を行う準備が整う。Grooveでは共有するスペースのことを「Shared Space」、メンバーを招待することを「Invite」、その招待を承諾することを「Accept」と呼ぶ。

### 新規にアカウントを登録

[ 1 ]

[ 完了 ]

インストールして起動画面が立ち上がった後は、新規にアカウントを作成する「Active Product」メニューが自動的に立ち上がる。\*は記入が必須の項目。一通り記入して「Next」をクリックしたあと、アカウント名などを設定して登録が完了。

名前 名字 電子メールアドレス  
住所(市区町村以降)  
都道府県 国名  
所属している組織(organization)  
組織のある国

アカウント名  
パスフレーズ(パスワード)  
パスフレーズ(再確認)  
パスフレーズをこのパソコンに記憶させるかどうかを選択  
groove.netに自分のアカウント情報を掲載するかどうかを選択

### 共有スペースを作成

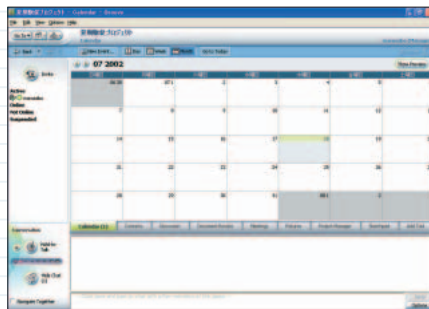


[ 1 ] アカウントを作成するとこの画面が表示される。共有スペースを作成するにはAをクリック。

[ 3 ] 共有スペース名を入力する。ここでは次のページでメンバーを招待するのでBを選択。

[ 2 ] 豊富なツールの中から、共有スペースで使うツールをチェックして次に進む。それぞれの機能は右のリストを参照してほしい。

[ 4 ] これで準備が整ったので「Finish」をクリックする。



[ 完了 ] これで [ 2 ] で選択したツールが起動する。このままでも利用できるが、次ページへ進んで他のメンバーと一緒に利用しよう。

- 「Calendar」日週間ごとの予定を入力、参照できるツール
- 「Chess Game」チェス盤をデジタルにしたツール
- 「Contact Manager」シェアードスペースごとのコンタクト情報を記録できるツール
- 「Discussion」電子会議を行えるツール
- 「Document Review」文書のレビューを行った結果を記録できるツール
- 「Files」ファイルの共有を行えるツール
- 「Forms」アンケート情報などの特定のデータ収集フォームを作成し、そのデータの収集、または参照できるツール
- 「Meetings」会議情報の参照と登録を行えるツール
- 「Notepad」リッチテキスト形式の文書を作成し、エクスポートできるツール
- 「Outliner」共有するアイデアなどを階層構造で表示できるツール
- 「Pictures」複数の画像の登録、または管理ができるツール
- 「Project Manager」プロジェクトのタスク管理ができるツール
- 「Sketchpad」フリーハンドで絵を描くことができるツール
- 「Text」リアルタイムで複数人がテキストを編集できるツール
- 「Tic-Tac-Toe Game」典型的な × ゲーム
- 「Web Browser」インターネットの参照をGroove上で行えるツール
- 「Welcome Page」シェアードスペースに入る際に注意してほしい事項などを記述できるツール

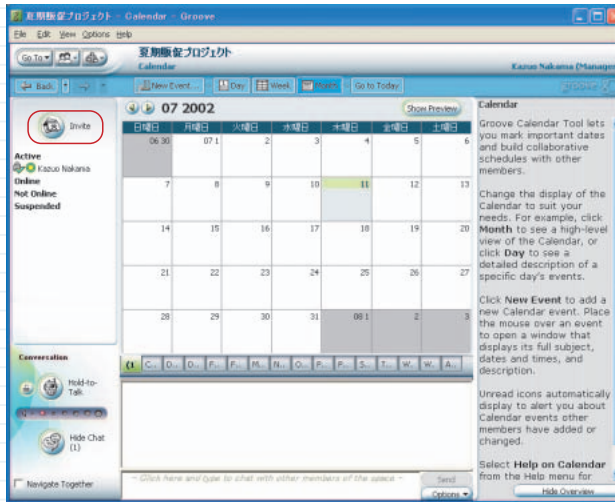


### 3 自分のGrooveに仲間を招待しよう

P2Pコラボレーションツールの醍醐味の1つは、複数人でリアルタイムに共同作業を進められることだ。そのためには、共有スペースにメンバーを招待しよう。招待するといっても、実際には自分のシェアードスペースの情報を相手に送信するだけだ。当然だが招待するメンバーのGrooveアカウントを知らなければならぬし、相手がGrooveを起動していなければならない。Grooveを利用していない人には、この機会にインストールを奨めてみよう。複数のPCを持っているなら1人で試すこともできる。

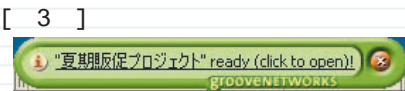
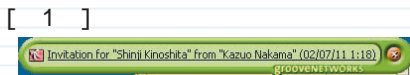


[ 1 ] 前ページで作成したシェアードスペースは右下に表示されているので、開きたいシェアードスペースを選択してAをクリックする。

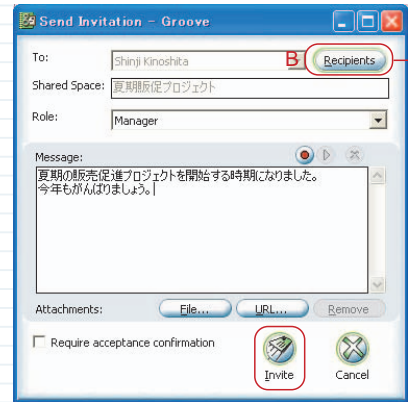


[ 2 ] シェアードスペースの画面。「Invite」ボタンをクリックしてメンバーを招待する。

招待されたらどうする？



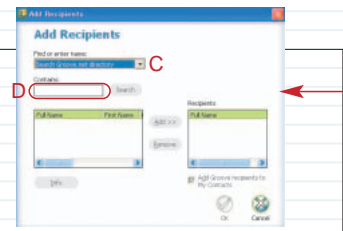
招待メッセージの通知が画面右下に表示される[ 1 ]、これをクリックすると、招待されたシェアードスペース名、スペースでのRole(役割)、メッセージが表示される[ 2 ]、招待を受理するには「Accept」をクリックする。「シェアードスペースのインストールが終わり準備完了」と通知が表示され[ 3 ]、それをクリックすると招待されたシェアードスペースが開く[ 4 ]



[ 完了 ] 「Send Invitation」画面。招待するメンバーを捜すには、「Recipients」[ B ] をクリック。メンバーを選択したら招待メッセージを入力して「Invite」をクリック。これで招待は完了だ。

#### Hint 簡単に招待する相手を捜せる！

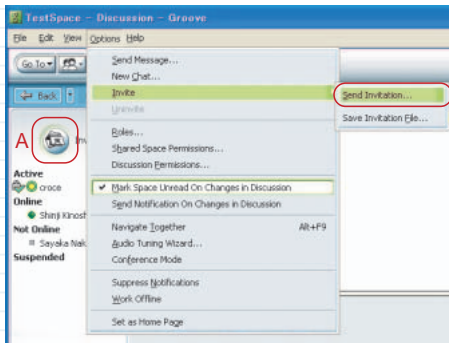
「Send Invitation」画面で招待するメンバーを指定するには、「Recipients」をクリックすると表示される「Add Recipients」画面で、「Find or enter name:」の下にあるCから探したいエリアを選択する。「Look in local network directory」エリアでは、同じLAN上で起動しているGrooveのアカウントを検索できる。また、「Search groove.net directory」では、Grooveのサーバーに登録しているアカウントを検索できる。検索エリアを選択したら、Dにアカウントの一部を入力して「Search」をクリックすると検索が始まる。



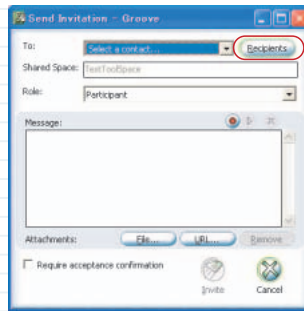
## 4 MSNメッセンジャーのユーザーを仲間に誘う

Grooveの売りの1つは、MSNメッセンジャーとの親和性だ。それには、Groove Networks社にマイクロソフトが約5,100万ドル出資して協力しているという背景がある。ここでは、MSNメッセンジャーのユーザーをシェアードスペースへ招待する方法を紹介しよう。Grooveからでも、MSNメッセンジャーからでも招待できる。MSNメッセンジャーから招待するには、互いの認証に「.Net Passport」を利用するので、認証自体が簡単になるというメリットがある。

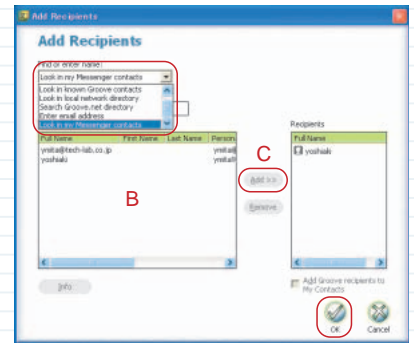
### Grooveから仲間に誘う



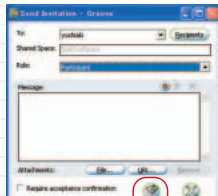
[ 1 ] 前ページ 1] の手順でシェアードスペースを開いた後、「ツールバー」の「Option」「Invite」「Send Invitation...」もしくはAをクリック。



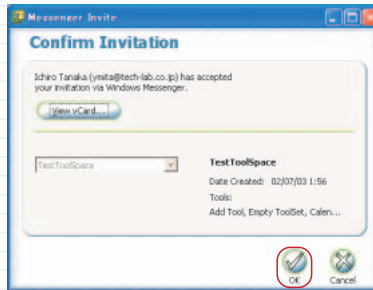
[ 2 ] Send Invitationウィンドウが表示されたら、右上にある「Recipients」をクリックして招待する人を探す。



[ 3 ] Add Recipients画面が開く。「Find or Enter name:」にあるプルダウンメニューから「Look in my Messenger contacts」を選択すると、MSNメッセンジャーでオンラインのメンバーが表示される。Bでメンバーを選択してCをクリックした後、「OK」をクリック。



[ 4 ] すると「Send Invitation」画面が開くので、前ページの完了と同様にメッセージを入力して「Invite」をクリック。



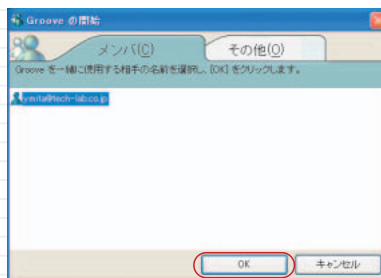
[ 完了 ] 招待された側が承諾すると、この画面が開く。招待したメンバーを確認して「OK」をクリックすればメンバーになる。これで招待完了。

### MSNメッセンジャーから仲間に誘う

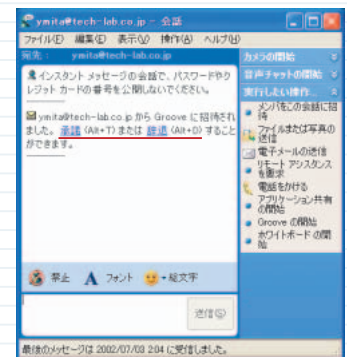


[ 1 ] MSNメッセンジャーを起動して、「実行したい操作」から「その他」を選択し、「Grooveの開始」をクリック。

[ 2 ] オンラインのメンバーからGrooveに招待するメンバーを選択する。これ以降の手順はGrooveから仲間に誘うの完了へ。



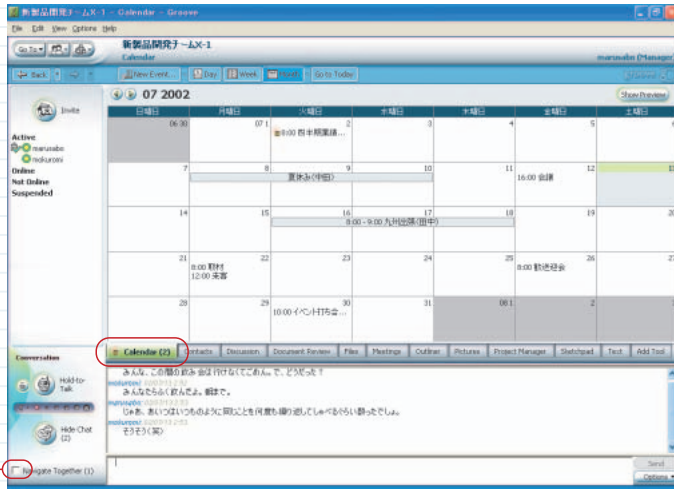
### 招待されたらどうする？



招待されたメンバーのMSNメッセンジャーに、招待メッセージが受信される。招待されたメンバーは、参加するときには「承諾」をクリックする。

## 5 スケジュールの共有と書き込み

Grooveにはさまざまなツールが標準で用意されている。ここからは、ツールの使い方を紹介していく。まずこのページではグループ作業には欠かせない「カレンダーツール」を取りあげる。カレンダーツールに登録した情報は、ほかのオンラインのメンバーにリアルタイムに反映される。オフラインのメンバーがいたとしても、情報はGrooveのサーバーに蓄えられるので、そのメンバーが次にオンラインになったときに、サーバーから即座に情報が同期される。



[ 1 ] まず、139ページで作成したシェアードスペースを開いてカレンダーツールを選択する。

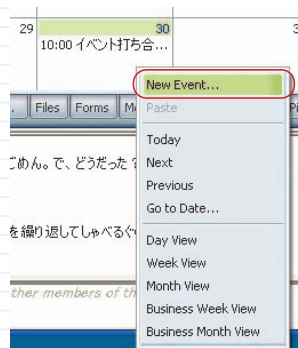
✓ Navigate Together (1)

### Tips 操作も同期もできる

通常は仲間同士でデータの同期だけが行われるが、画面左下の「Navigate Together」にチェックすると、データの同期だけではなく共有スペースで操作した画面の動きも同期される。1人がほかの全員に共有スペース内のツールを切り替えながら説明するときなどに便利だろう。



[ 完了 ] 登録した内容が反映されて、時間とスケジュール名が表示される。月間表示以外にも右のように日中表示、週間表示に変えることもできる。

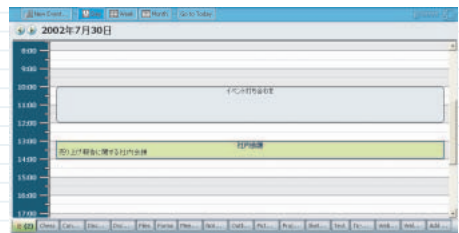


[ 2 ] 次に、予定を入力したい日付で右クリックし、メニューの中から「New Event」をクリックする。

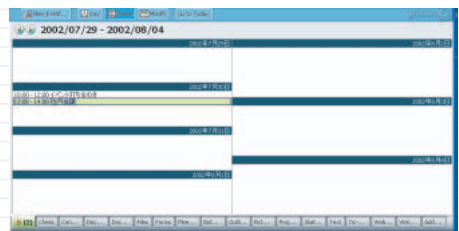


[ 3 ] 「Edit Calendar Event」の画面でスケジュール名を入力し(A)、時間を選択(B)する。スケジュールの内容(C)を入力したら「OK」をクリックする。

カレンダーの表示方法も好みに合わせてカスタマイズできる。



日中表示



週間表示

### Hint 画面右下のメッセージは？

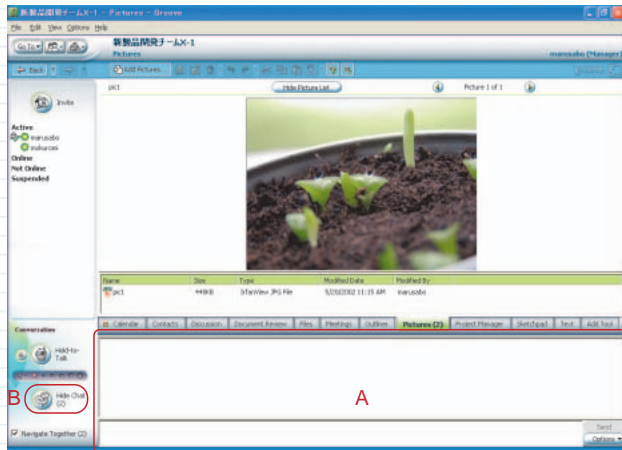
Grooveを使っているときによく画面の右下に現れるメッセージ。その意味を知っておけばもっと快適に使える。

送信側	メッセージ	意味
	Inviting XXXX: Delivered, waiting for invitee to open	招待メッセージが送信先に送られ、送信先がメッセージを開くのを待っている。
	Inviting XXXX: Accepted: Sending shared space, 50% complete...	送信先が招待メッセージを受取り、シェアードスペースの情報が送られている。ここに示される数値は送信しているデータ量のパーセンテージである。
	Inviting XXXX: Shared space delivered!	シェアードスペース情報は送信先に正常に送られた。
受信側	Waiting for YYYY: Acceptance delivered...	送信元に招待メッセージの受取を送信した。
	Waiting for YYYY: Downloading Shared Space, 50% complete...	送信元からシェアードスペースをダウンロードしている。ここに示される数値は受信しているデータ量のパーセンテージである。
	Waiting for YYYY: Installing Shared Space...	Grooveがダウンロードされたシェアードスペースをインストールしている。

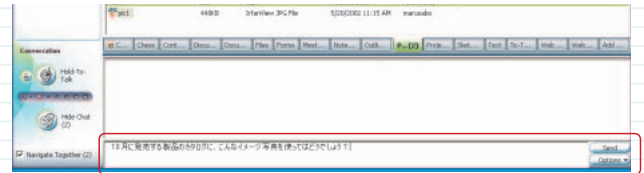
## 6 チャットとインターネット電話

Grooveのチャットはテキストと音声の2種類がある。前ページのカレンダーなどツールを使いながら、チャットを行えるのは便利だ。慣れてくると音声チャットの方が使い勝手がよくなるが、その場合はマイクやスピーカーが必要になる。プレゼンテーションや授業のように一対多数の場合には、プレゼン側は音声チャットで話し、質問はテキストチャットで受け付けるなどすれば、必要な質問に随時答えながらプレゼンを進めるといった使い方もできる。

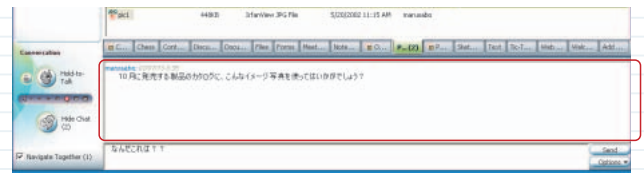
### テキストチャットを使う



[ 1 ] 共有スペースの下段には、テキストチャットスペースがあい(A) 全員で共有できる。上段のツールが表示される部分を広く使いたいときには、「Hide Chat」をクリックする(B)と、チャットスペースを隠すことができる。



[ 2 ] メッセージを送信するには最下段のスペースに入力し、キーボードの「Enter」キーを押すか、「Send」をクリックする。

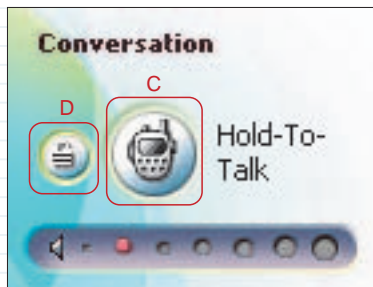


[ 3 ] 送信されたメッセージは上段に表示され、チャットが進む。



[ 完了 ] チャットのログを削除したい場合には、右側の「Option」「Chat」「Delete Transcript」をクリックすると、[ 1 ]の状態に戻る。

### インターネット電話を使う



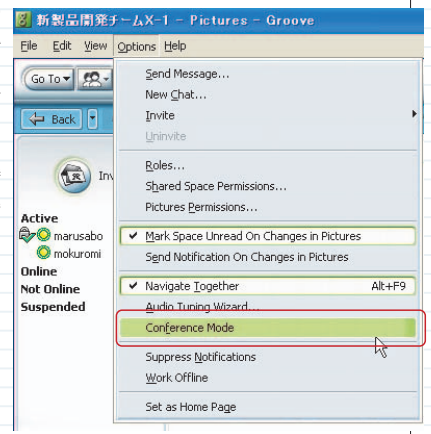
Cをクリックし続けると短いベル音が鳴り、「Hold-to-Talk」から「Talk」に変わる。この状態でマイクに話すと相手に聞こえる。



クリックし続けずに話すにはDを一度クリックすればいいが、話し終わったら再度クリックしないと相手からの声が聞こえない。

### Tips 全員で会話する

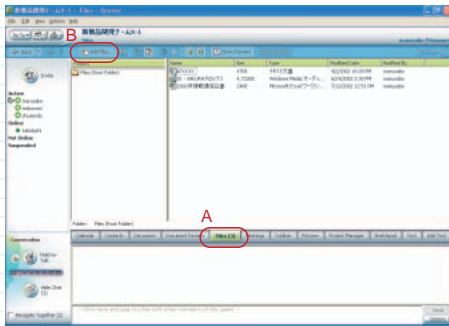
インターネット電話では通常は1人が話している、ほかの仲間は話せない。つまりトランシーバーで交互に話している状態。「Option」「Conference Mode」をクリックすると複数人で同時に話すことができるが、遅延のパラツキがあるので利用しにくい場合がある。



# 7 ファイルをグループで閲覧、編集する

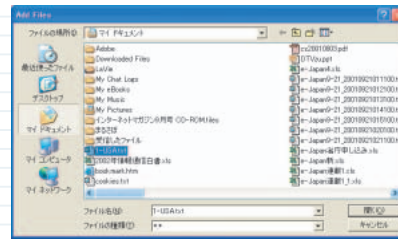
ファイルツールを使うとメンバー同士でファイルを共有することができる。ファイルの更新や削除はほかのツールと同じく瞬時に同期されて反映される。共有ファイルは対応しているソフトウェアがインストールしてあれば、ファイルツールから開いたり、編集したりすることができる。また、Wordなど一部のソフトはGrooveを使って共同で編集することも可能だ。メンバー間でのやりとり以外にも、自宅と会社のパソコンでファイルを同期させる使い方もあるだろう。

## ファイル共有の基本



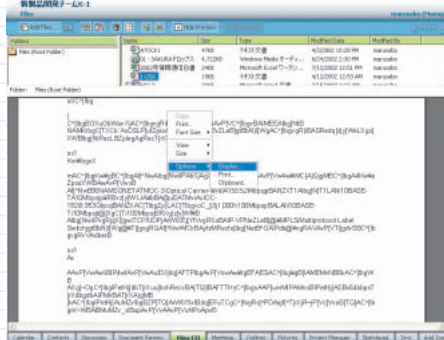
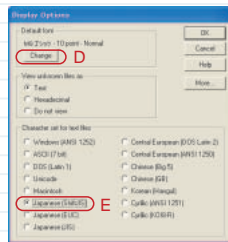
[ 1 ] 「Files」ををクリックしてファイルツールを起動したら、「Add Files...」(B)をクリックする。

[ 2 ] 「Add Files」画面で、共有したいファイルを選択する。ここではテキストファイル。

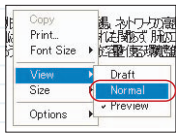


[ 3 ] すると開いたファイルがメンバー全員に同期される。ファイルをプレビューするにはCをクリックする。

[ 5 ] 「Display Options」画面。Dで日本語フォント、Eで文字コードを選択して「OK」をクリック。それでも見づらければ、プレビュー画面で右クリックして「View」「Normal」や「Draft」を選択する。



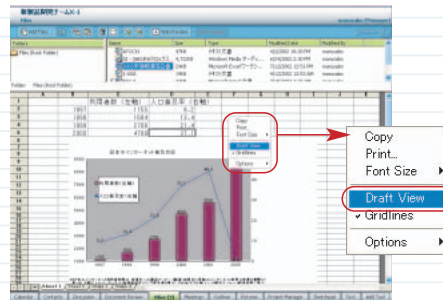
[ 4 ] プレビューでは日本語だと文字化けすることが多い。プレビュー画面で右クリックして「Options」「Display...」を選択する。



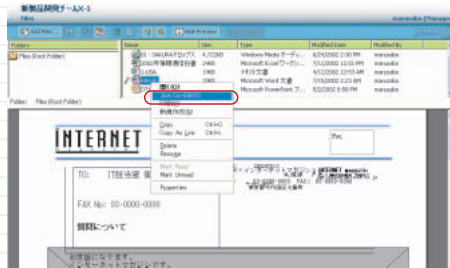
[ 完了 ] 読みやすい設定を選んだら表示完了。プレビューでは、編集することはできないが、文字のコピーや印刷が可能だ。

## Tips Excelの閲覧

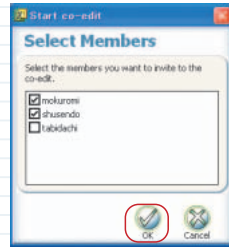
「ファイル共有の基本」の3でExcelのファイルを選択すると同様に閲覧できる。プレビュー画面で右クリックし、「Draft」のチェックマークをはずすとグラフなども見ることができる。しかし、編集することはできない。



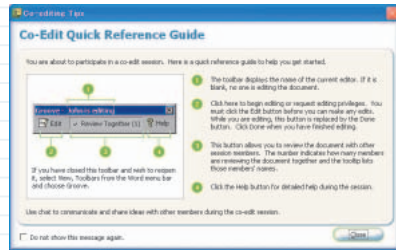
## Wordをグループで編集



[ 1 ] 前ページの要領でWordファイルを右クリックして「Start Co-Edit」で編集を開始する。



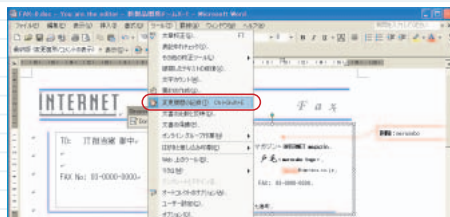
[ 2 ] 共同作業するメンバーを選択して「OK」する。



[ 3 ] このCo-Editガイドの画面とともにAが起動し、Co-Editガイドを閉じるとBが起動する。①タイトル部分には現在編集しているアカウント名が表示される(C)。②「Edit」をクリックすると自分が編集することをメンバーに通知でき(D)。「Done」に変化する(E)。編集完了後にクリックすると、編集内容がメンバーと同期する。③ここにチェックがついていると(F)すべてのメンバーに同じページが表示される。④ファイルツールのヘルプを表示する。

[ A ]

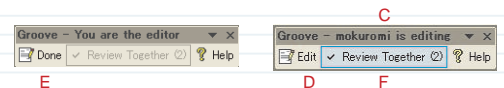
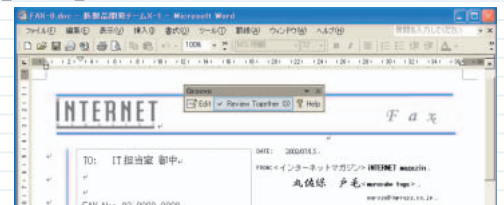
[ B ]



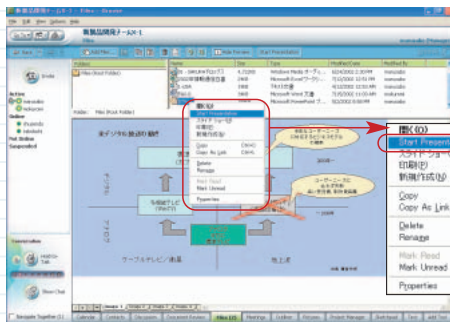
[ 完了 ] 複数で編集すると誰がどこを修正したのかわからなくなるため、Wordの「ツール」→「変更履歴の記録」を使うと便利。編集がすべて終わったらWordを終了して、「You are exiting the review session.」画面で「OK」をクリックすると編集完了。



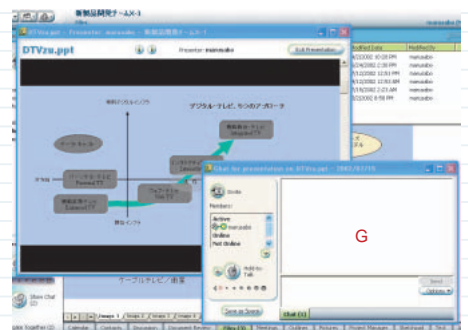
この画面でメンバーとチャットしながら編集できる。



## PowerPointでプレゼンテーションを行う



[ 1 ] 前ページの要領でファイルを開いたら、ファイルを選択して右クリックし、「Start Presentation」をクリック。

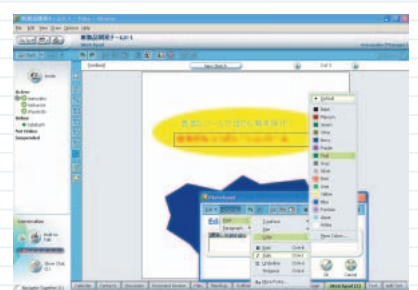
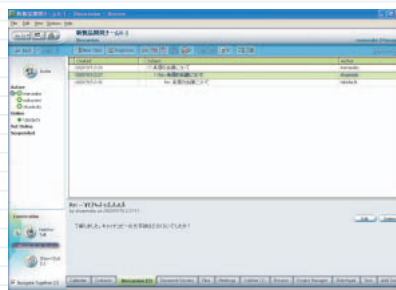


[ 完了 ] Wordの[ 2 ]と同じくプレゼンする相手を選択したら、チャット画面が起動してGプレゼンテーションが開始される。

## Hint

そのほかにも豊富なツールが満載

Grooveにはここでは紹介しきれないほど多数のツールが用意されている。電子会議を行うディスカッションツール(左)は、各スレッドを階層で表示して、掲示板と同様の機能を持つ。しかし、日本語の件名は文字化けしてしまう。また、スケッチパッド(右)はウィンドウズのパイントと同様にフリーハンドで絵が描ける。チャットと併用してデザインの打ち合わせをするときなどに便利だろう。こうしたツールはGrooveのウェブサイトからダウンロードできる。



[INTERVIEW] 日本発のP2Pグループウェアがついに登場！

## 元ロータス常務がAirOneを引っさげGrooveを猛追

この9月、純日本産のP2Pコラボレーションツール「Ariel AirOne」がリリースされる。この分野で先を走るGrooveの開発者であるレイ・オジーはLotus Notesの生みの親として知られているが、アリエル・ネットワーク社長の栗村信一郎氏もロータスの日本法人でNotes開発の陣頭指揮をとっていた人物だ。期待のAirOneについてはもちろん、Grooveなどの先行組に対する戦略などを聞いた。

☎: 最初に、P2Pコラボレーション分野に打って出た動機を聞かせてください。栗村さんはロータス時代にLotus Notes(以下、Notes)を手掛けておられましたので、同じNotesの開発者であるレイ・オジー氏との接点から、選択肢としてはGrooveの日本法人設立というのもあったのではないのでしょうか。

栗村: Grooveの日本語化云々については、最初からまったく考えなかったですね。と言いますのも、我々はNotesを日本企業向

けに出していたときに、米国製であるNotesが日本の商習慣に合わない部分というのを感じていたからです。

☎: 日本の商習慣に合わないというのはどういったことですか。

栗村: たとえば日本では、グループを組んでの「グループスケジューリング」という機能が非常に重要視されますが、これは米国ではあまり見られない慣習です。あと、これはGrooveも現バージョンではまだ実装していませんが、ビデオチャットのような機能が米国では重宝されます。が、これが日本ですぐに求められているかという点、必ずしもそうではないと思います。さらに、米国製のグループウェアは日本語化全般でどうしても無理がある部分がありま

すし、情報の共有も日本ではもっときめ細

かさ

が要求されています。こうして見ると、従来のグループウェアが取り残した部分がまだ相当にあると感じたのです。

☎: 具体的にはどんな領域ですか。

栗村: たとえばメーカーであれば、工場と

ディーラーとユーザーを結ぶコミュニケーションのような使い方です。各地に分散する拠点をつないでの情報共有は、従来のサーバー/クライアント形式のグループウェアでは難しいですから。そういう意味では、NotesとGrooveの間には、まだまだ埋められるスペースが残っていて、我々はArielAirOne(以下、AirOne)でそこを埋めていきたいと思っているのです。

小林: 日本と米国でいろいろとインタビューを行った結果、グループウェアひとつをとっても使い方が全然違うということがわかりました。日本のオフィスでは普通に机を並べて仕事をしているところが多いですが、米国では各自の席がパーティションで仕切られていて物理的に分かれているといったことも、少なからず情報共有のやり方に影響していると思いますよ。

AirOneは日本で受け入れられるのか

☎: GrooveやサイボウズとAirOneの違い

栗村信一郎  
(くりむら・しんいちろう)

アリエル・ネットワーク株式会社  
代表取締役社長

東京大学理学系大学院卒。富士通、日本デジタルイクイップメント研究開発センターなどを経て、1993年よりロータスで常務取締役開発本部長としてNotesやccMailなどのグループウェア製品を含め開発全体を統括。2001年4月にアリエル・ネットワーク株式会社を設立、現在に至る。



小林 雅  
(こばやし・まさし)

アリエル・ネットワーク株式会社  
取締役

東京大学工学部卒。アーサー・D・リトル(ジャパン)を経て、2001年6月にエイバックス・グローバル・パートナーズに入社。現在、エンタープライズ・ソフトウェア、IT関連サービス分野の投資を担当。現在、エイバックス・グローバル・パートナーズのアソシエイトも勤める。



について説明していただけますか。

栗村：まず、Grooveは何よりコミュニケーションのリアルタイム性に重点が置かれていますよね。インスタントメッセージングやインターネット電話といった機能が特徴的です。それに対してサイボウズは、クライアント/サーバー形式という意味ではNotesと同じ世界です。

製品発表後にいただいた問い合わせの中でも多いのが、大企業の拠点間を結びたいという要望や、中堅企業でLANだけの情報共有をやりたいたいといったリクエストでしたね。なかでも新しいデマンドとして見てきたのが、企業を超えてのコミュニティ作りです。先ほどのメーカーの例もそうですが、あとはコンサルティングファームなどからもそうしたニーズが寄せられています。このようなことはNotesなどのクライアント/サーバー形式のグループウェアではできなかったことですね。

小林：Grooveを提供しているGroove Networks社はマイクロソフトから5,100万ドルもの出資を受けました。P2Pコラボレーション分野では一人勝ちの状態にも見えます。さらに今後、マイクロソフトのOffice製品などがGrooveの上で動作したり、インスタントメッセージングでは.NET

PassportにおけるIDとGrooveのIDが共通化する話もありますが、こうした動きはどうご覧になっていますか？

栗村：そのような動きには多少の脅威は感じていますが、一方ではビジョンが大きすぎて本当に使えるのかどうかはわかりません。Grooveは独自のユーザーインターフェイスを作りたいということでプログラムが成されていますが、結果としてそのために動作が重くなってしまっているようにも思います。我々がAirOneを開発する際も、そのあたりは相当に悩んだのですが、現在のブラウザはダイナミックHTML(DHTML)みたいなものも出てきたおかげで相当に細かいところまでできることがわかりました。だったら独自のユーザーインターフェイスを開発しないほうが開発期間も短くできます。結果としてGrooveよりもモジュールを短くすることができましたし、動作自体もスムーズだと思います。

小林：P2Pのファイル共有というと、Napsterやグヌーテラなどで行われている著作権上問題のあるデータのやり取りがどうしても話題になってしまいます。AirOneのグループ上で著作権で守られているコンテンツが共有された場合はどうなるのでしょうか。

栗村：AirOneのようなグループウェアにおいては、ユーザーの匿名性というのがありませんから、誰が投げたのかもすぐにわかります。ですので、そういったことは防げると思います。

小林：そうした問題は、企業やコミュニティの倫理観の問題にも関係していますよね。電子メールにしても同じではないでしょうか。

Ariel/AirOneを支える  
P2Pフレームワーク「SOMAnet」

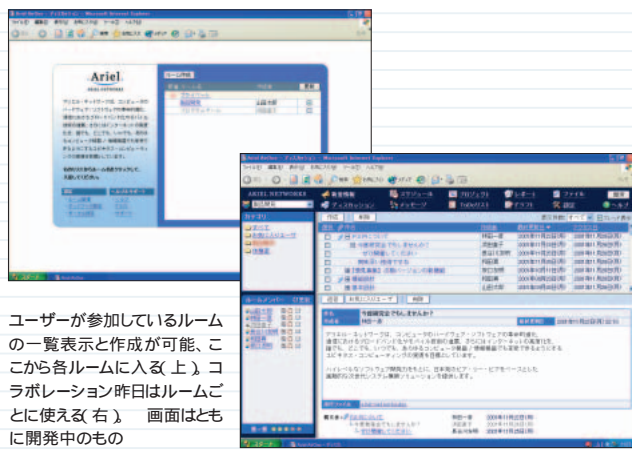
小林：AirOneでは、P2Pでコミュニケーションを行う相手をどのようにして見つけるのですか？

栗村：LAN内では自分のほうからプッシュして他のメンバーを見つけるというスキームを持っていますが、ファイヤーウォールが



聞き手：川崎裕一  
(かわさき・ゆういち)  
P2Pコミュニティ「Jnutella.org」ファウンダー。また、ネットイヤーグループ株式会社のテクニカルストラテジストとしてP2P事業も手掛ける。

## COMIN' SOON SEPTEMBER 2002...



ユーザーが参加しているルームの一覧表示と作成が可能、ここから各ルームに入可(上)。コラボレーション昨日はルームごとに使える(右)。画面はともに開発中のもの

いよいよ開発も大詰めを迎えた「Ariel/AirOne」。先ごろ製品発表会も無事に終え、あとは9月に迫った 版の公開を待つばかりだ。公開に先立ち、アリエル・ネットワーク社はウェブサイト上で 版の申し込みを受け付けているので、興味のある人は同社のウェブサイトにアクセスしてみよう。

Jump [www.ariel-networks.com](http://www.ariel-networks.com)

### Ariel/AirOneについて

アプリケーション	ディスカッション/ファイル管理/メッセージ / ToDoリスト スケジュール / プロジェクト管理
対応 OS	ウィンドウズ Me/2000 Professional / XP Home Edition/XP Professional Edition/Linux
対応ブラウザ	インターネットエクスプローラ5.0以降/ネットスケープ6.2以降 Mozilla 1.0以降
価格	1ユーザーあたり1万円前後(予定)



ある場合は「パブリックノード」と呼ぶ我々のリレーサーバーを介して相手を確認することになります。

☎：御社が開発してAirOneにも実装しているP2Pフレームワーク「SOMAnet」についてお聞きしたいと思います。これはJXTAのような、ネットワークでピア(Peer)の存在を発見するディスカバリープロトコルとはまったく異なるものなのでしょうか。

栗村：SOMAnetも基本的にはTCPのフレームワークで作っていますので、ある意味では同じ部分が多いと思います。IPアドレスを投げて、受け取ったノード(ピア)がそれを見て対応するというピアを発見する仕組みはほとんど同じだと思います。そのうえでSOMAnetは、トラフィックを混ませない仕組みだとか、アプリケーションとの組み合わせといった点において、より実践的だと言えるかもしれません。もう一つは非常にコンパクトに作っているという特徴もあります。

☎：そうすると、SOMAnetのライセンス提供によるビジネス展開というもあり得ますね。

栗村：それは難しいかもしれません。と言いますのも、JXTAをはじめP2Pのフレー

ムワークはかなり出てきていますが、フレームワークそのものはほとんど利益を生んでいないからです。

小林：フレームワークを手に入れたとしても、その上でアプリケーションを開発するというのは、やっぱり難しいんですよね。これにはノウハウが必要になりますので。ノウハウを豊富に持つ我々としては、AirOneのようなアプリケーションを世に出して、ユーザーの皆さまから対価を払っていただくというのが一番真っ当なビジネスだと思っています。

携帯電話やPDAにも  
P2Pグループウェアが実装

☎：今後、AirOneが携帯電話やPDAに対応する可能性はあるのでしょうか。

栗村：AirOneの次期バージョンでiモードからのブラウジングができるようになります。また、一部のPDAにも対応を検討しています。PDAについても最初はブラウジングからになるでしょうね。PDAがP2Pの1つのノードとして機能するようになるのは次の次のバージョンくらいからではないでしょうか。

☎：そうすると、PDA同士が連携し合う

世界が来るということですか？ PDA同士がSOMAnetで通信して互いのアプリケーションを探してきて、そこで共有するようになるのですか。

栗村：そうですね。現在のPDAの中でP2Pのノードとして中心になるのはPocket PCだと思うのですが、Pocket PCの上にはすでにマイクロソフトのOfficeの世界が築かれていますからね。それを駆逐してどこまで独自の世界が作れるかどうかでしょうが.....。

☎：最後に、AirOneの販売方法について聞かせてください。パートナーを通じて売っていくのですか。それともウェブサイト上で直販するのですか。

栗村：9月にリリースする最初のバージョンは、単価も1ユーザーあたり1万円と安いので、オンラインでの販売が中心になると思います。あとはOEMとしてハードウェアにバンドルして販売することも検討しています。

小林：大規模用途向けの管理ツールも用意しますので、すでにグループウェアを導入済みという企業にもぜひ使ってもらいたいですね。

☎：本日はどうもありがとうございました。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)